

ご利用になる前に必ずお読みください

このPDFファイルの内容についてのご質問・お問い合わせは株式会社アスキー・メディアワークスでは一切お受けできません。ご自身の責任においてご利用ください。



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスの下でライセンスされています。この使用許諾条件を見るには、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/>をチェックするか、クリエイティブ・コモンズに郵便にてお問い合わせください。住所は：171 Second Street, Suite 300, San Francisco, California 94105, USA です。

このファイルをクリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスに基づいて利用する際には、下記クレジットを必ず作品や配布物に表示する必要があります。

クレジット：

- 文/宮里圭介
- 撮影 岡田清孝
- デザイン/シオズミタロウ
- 初出/株式会社アスキー・メディアワークス「Ubuntu Magazine Japan vol.01」
(<http://ubuntu.asciimw.jp/>) 2009年9月29日発行

動かし隊が行くなんでも Ubuntu で使いたい!

vol.01

特殊部隊『動かし隊』とは?

ひとつでも多くの機器をウィンドウズから救おうと結成された特殊部隊。Ubuntuで動かすことを目的としているが、力及ばず動かせなくてもネタが増えたと喜ぶヌルイ部隊である。

隊長 みやさと
重い腰を上げればやる
気を出す切り込み隊長。
ただし基本は他人任せ。

隊員 ベーコン
Ubuntuは使うけれど
浅く広くがモットー。
Bluetoothが好き。

今回の達成度

62%

MISSION
FAILED

各機能の動作状況

ディスプレイ	○ (100%)
無線LAN	× (90%)
タッチパネル	× (20%)
Bluetooth	○ (100%)
GPS	× (0%)

■画面表示はできるものの動かない機能が多く、単体で使うのは厳しい結果になった。



TARGET 01 Viliv S5

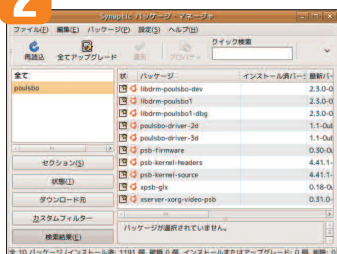


- ブルーレー
- <http://brule.co.jp/>

直販価格 5万9800円~

■4.8インチ液晶を搭載する約400グラムの超軽量UMPC。CPUはAtom Z520を採用。キーボードはなく、タッチパネルで操作する。

2 パッケージを追加する



■ [検索] (クイック検索ではない) を使って「poulsbo」を検索し、パッケージをすべて追加。

1 認証キーとリポジトリの追加

●認証キーの追加
`sudo apt-key adv --recv-keys --keyserver keyserver.ubuntu.com C6598A30`

●リポジトリの追加
`deb http://ppa.launchpad.net/ubuntu-mobile/ppa/ubuntu jaunty main`
`deb-src http://ppa.launchpad.net/ubuntu-mobile/ppa/ubuntu jaunty main`

■まずはSynapticを使って認証キーとリポジトリを追加しておく。

「Viliv S5」で使われているCPUはAtomのZシリーズ。そのためグラフィックはPoulsbo用のドライバとなるが、標準では導入されていないので、800×600ドットの解像度でしか表示されない。まずはこのドライバを入手し、本来の1024×600ドットで表示できるようにしよう。なお、本製品の無線LAN機能も標準では使えないため、別途Ubuntuで利用できるUSB接続の有線、もしくは無線LANアダプターが必要だ。

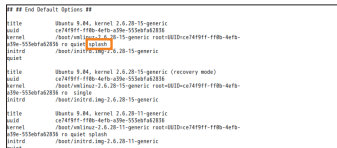
ドライバは、Launchpadの

最大解像度で
表示可能にする

3 「nosplash」に変更する

●ファイルを編集
/boot/grub/menu.lst

→ 「nosplash」へ変更

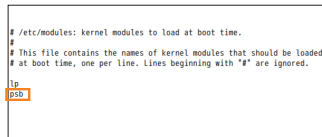


■/boot/grub/menu.lstを編集し、kernelのオプション「splash」を「nosplash」に変更する。

3 「psb」を追記する

●ファイルを編集
/etc/modules

「psb」を追記



■Poulsbo用のドライバを読み込むよう、/etc/modulesの末尾に「psb」を追記する。

Ubuntu Mobileチームのものを利用する。手順としては、認証キーとリポジトリを追加し、Synapticを使って関連ファイルをまとめてインストール。その後、設定を一部書き換えて再起動するというものだ。これはソニーの「VAIO type P」やデルの「Inspiron mini 12」などにインストールする場合と同じ手法だ。ただし、ひとつだけ注意しておきたいのは、起動オプションの「splash」が有効だと起動に失敗し、カーソルだけの真っ暗な画面になること。再起動する前に必ず「/boot/grub/menu.lst」を編集し、「nosplash」と書き換えるのを忘れないようにしよう。もし忘れていた場合は、起動時に「e」キーを押して起動オプションを変更すればいい。



タッチパネルがどのデバイスで動いているのか確認しようと、「cat」コマンドで「/dev/input」を「event0」から順に見ていったところ「event9」で反応あり。「lshal」の詳細を調べ、「evtouch」を使った設定ファイルをつくってみたが、どこをタッチしてもカーソルが右上にしか動かないという半端な動作になってしまった。そこで、他機種で使われているタッチパネルのドライバをインストール。タッチすると半端に反応はあるもののキャリブレーションできず、使いものにならなかった。

無線LAN アクセスポイントの 検出までできるが……

標準で認識されない無線LANの設定方法としては、Windows用のドライバを流用する「ndiswrapper」が定番だが、試してみても使えなかった。次の手へ。状況を確認するため「dmesg」でログを確認してみると、なにやらファイルが足りないというようなことが書かれている。そこでこのファイルを追加してみると、見事無線LAN機能を認識し、アクセスポイントの検出まで可能になった。ただし、接続しようとするとき必ずフリーズ。動作はするが機能は使えない、という微妙な結果に。

タッチパネル キーボードレス機の 超・重要機能！

起動ログに気になる文字が

「Indiswrapper」を試す

ドライバーを手入

デバイスを確認

再接続するとフリーズ！

ファイルを手入してコピー

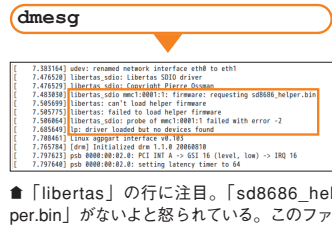


<http://home.eetl.com.tw/web20/eGalaxTouchDriver/linuxDriver.htm>

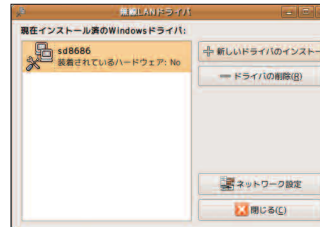
■知る人ぞ知る「mbook M1」はこのドライバで動くらしい。淡い期待を抱いて、試してみることに。



■反応のあった「/dev/input/event9」を見てみると、「ImPS/2 Generic Wheel Mouse」の文字が。PS/2接続なの？

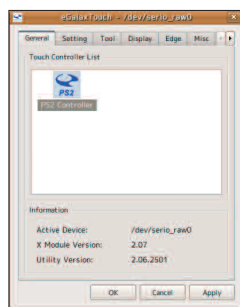


■「libertas」の行に注目。「sd8686_helper.bin」がないと怒れている。このファイルがあれば、動くかも！



■ドライバをインストールしても、ハードウェアは「No」のまま。複数のバージョンで試してみたが、結果は同じだった。

設定ツールは動く



■なんとなくデバイスも認識している感じでツールも起動するが、カーソルは飛び、キャリブレーションはできない。

ドライバーをインストール

- 解凍してインストール
解凍→「sudo ./setup.sh」→「2でPS/2を選択」
- コマンドで設定を追加
echo -n serio_raw > /sys/bus/serio/devices/serio0/drvctl
- 一度再起動
- ソフトを起動する
sudo /usr/local/eGalaxTouch32/eGalaxTouch

再接続するとフリーズ！

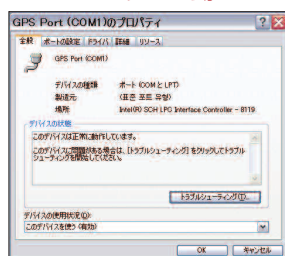


■あと一歩なのにフリーズする。なお、「wcid」で接続してもダメで、「iwconfig」での手動接続もダメ。

ファイルを手入してコピー

- ドライバーをダウンロード
<http://www.marvell.com/drivers/display.do?driverId=203>
- このファイルを解凍
SD-8686-LINUX26-SYSKT-9.70.3.p24-26409.P45-GPL.zip
- さらにこのファイルを解凍
SD-8686-FEDORA26FC6-SYSKT-GPL-9.70.3.p24-26409.P45.tar
- ファイルをコピー
「helper_sd.bin」を「sd8686_helper.bin」へリネーム。これと「sd8686.bin」を「/lib/firmware/」へコピー

XPならちゃんと動いている



■GPSはデバイスマネージャーで見ると、COM1に接続されている。

XPではCOM1に接続されているGPS。Ubuntuから「/dev/ttySO」を開いてみてもなんのデータも出ておらず、お手上げ状態。これ以上はなにをすればいいのかわからなかった。

COM1にあるはずが アクセスできず

XPでの設定ツール



■無線LANやBluetoothをオン、オフ設定できる「ViviManager」。Ubuntu起動前にこれで機能をオンにする。

Bluetooth あつてなく動作するも XPでの設定に注意

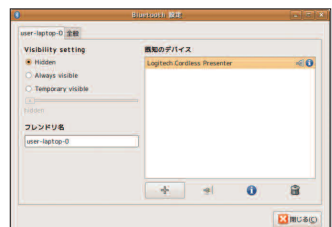


viliv S5を Ubuntuで使う ようになる

ゴテゴテと 周辺機器が……

Ubuntuは動作するものの、無線LANとタッチパネルという主要機能が使えないのが痛い。そのため、普通に使うとすれば、マウスにキーボード、LANアダプターが必須。本体は小さいのになあ……。

問題なく動作



■Bluetoothさえオンになっていれば、特別な設定は不要。最初から動作し、スグにBluetoothの機器を接続して利用できる。

利用できた。問題があるとすれば、電源オフから起動した場合に使えないこと。一度XPを起動して、機能を有効にしてから再起動しなければならぬのだ。実はこれ、無線LANもタッチパッドも同じ仕様。機能をオン、オフできる「ViviManager」が動けばいいのだが、Wineを使ってもUbuntu上では動作しなかった。

今回の**達成度**
100%

MISSION
COMPLETE

各機能の動作状況

機器認識 ○ (100%)

ネット接続 ○ (100%)

マイクロSD ○ (100%)

▲どの機能もまったく問題なく動作した。通信速度も満足のいく結果だった。

TARGET 02

D31HW



●イーモバイル
●http://emobile.jp/
直販価格 **1万7980円~**
(新にゅん)

▼下り最大21Mbpsの高速通信規格 HSPA+に対応したUSB接続のデータ端末。ドライブCD機能を内蔵し、挿すだけでインストール可能。

1 CD-ROMとしてしか見えない



■Windowsならドライブのインストールに便利だが、そのドライブをインストールできないUbuntuでは、いつまでもCD-ROMドライブのまま。よかれと思ってつくられた機能なのだろうが、アダになってしまっている。

これは可能にしてくれるのが、「usb_modeswitch」というソフト。機器に特殊なメッセージを送ることでもモードを切り替えてくれる。このソフトをインストールし、送信するメッセージを設定しよう。

モード変更が必要な
特殊なハード仕様

機器認識

4 定義ファイルの作成

●ソフトの作成元を参照

http://www.draisberghof.de/usb_modeswitch/usb_modeswitch.confで「Huawei E270+」を検索。

●/etc/usb_modeswitch.confを作成

「DefaultVendor」「DefaultProduct」「MessageContent」の3行をコピーして作成する。行頭のセミコロンは省くこと。



3 ソフトをインストール

●認証キーの登録

`sudo apt-get adv --keyserver keyserver.ubuntu.com --recv-keys 90D0C02D0`

●レポジトリへ追加

`deb http://ppa.launchpad.net/daniele.domenichelli/backports/ubuntu jaunty main`
`deb-src http://ppa.launchpad.net/daniele.domenichelli/backports/ubuntu jaunty main`

●インストールするソフト
`usb-modeswitch`

2 機器を確認してみる

`lsusb`



■「lsusb」で認識状況を確認。「12d1:144e Huawei Technologies Co., Ltd.」と認識されていることがわかる。この「12d1:144e」というIDをメモしておこう。

マイクロSDも使える!



は、本体に内蔵されているマイクロSDは、モード変更後に利用可能に。

6 通信ポートも追加!

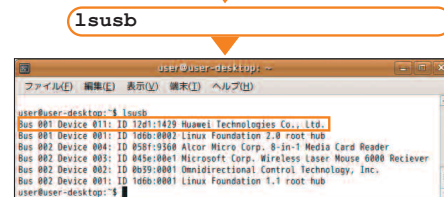
`ls -l /dev/ttyUSB*`



■「ls」コマンドでデバイスを確認してみると、モード変更前はなかった「/dev/ttyUSB0~2」が追加されているのがわかる。

5 モードを変更してみる

`sudo usb_modeswitch`



■「usb_modeswitch」を実行し、「lsusb」でIDを確認。「12d1:1429」に変化していることがわかる。

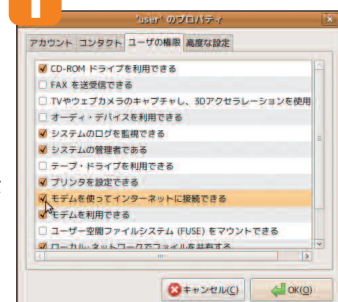
2 「/dev/ttyUSB0」を指定



■「Setup」で「Device:」を変更する。ここで「/dev/ttyUSB0」を指定するが、プルダウンの一覧には含まれていない。キーボードから入力してやろう。

■[システム]-[システム設定]-[ユーザとグループ]から変更できる。[ロックの解除]をしてからユーザのプロパティを開き、[ユーザの権限]で設定しよう。

1 権限を変更する



さて、通信端末として無事に認識されたら、次は接続設定だ。このとき忘れがちなのが、権限設定。通常のユーザはモデムを使ったネット接続が制限されているため、これを許可しておこう。

「gnome-ppp」は「/dev/ttyUSB0」を使うよう指定する。ユーザ名とパスワードは「em」、電話番号は「9999999」と、よくあるイーモバイル用の設定でオーケーだ。

「gnome-ppp」を使って
ダイヤルアップ接続

ネット接続



なんでもUbuntuで使いたい!

今回の達成度

100%

MISSION COMPLETE

各機能の動作状況

機器認識

○ (100%)

データ補足

○ (100%)

ソフト利用

○ (100%)

■難しい設定などは必要なく素直にすべての機能が使えた。位置の捕捉もなかなかの精度。



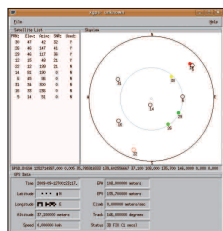
ND-100
GPS USB Dongle

●販売元 GISupply
●<http://www.gpsdgps.com/>

直販価格 **3444円**

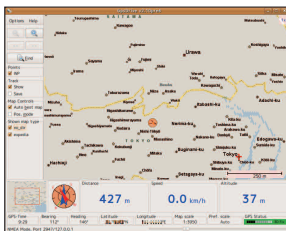
■USBへと直接接続可能なGPS受信機。低価格ながら、GPSの誤差を補正し、測位精度を改善するWAAASに対応。

TARGET 03



■最初の上の「xgps」で動作を確認し、その後の「gpsdrive」を使ってみよう。地図は自作しないとサビシイ。

GPSの動作を確認する



「gpsd」の設定を行う

●通信ポートの速度を設定

`sudo getty 38400 ttyUSB0`

●gpsdを起動する

`sudo gpsd /dev/ttyUSB0`

機器は接続するだけで「/dev/ttyUSB0」と認識されるので、あとはGPSからのデータを処理するだけ。これは「gpsd」を使えばオッケーだ。パッケージにもなっているの、Synapticなどでインストールしよう。難点といえば、GPSを活用できるソフトを探すことくらいだ。

GPUの利用
「gpsd」を使って各ソフトから利用可能

自動で「usb_modeswitch」を実行

ID「12d1:1446」に該当する機器(D31HW)が装着されたら、「usb_modeswitch」を実行する。

```
ACTION=="add", SUBSYSTEM=="usb", ATTRS{idVendor}=="12d1",
ATTRS{idProduct}=="1446", RUN+="/usr/sbin/usb_modeswitch"
ACTION=="add", SUBSYSTEM=="tty", RUN+="/usr/local/bin/tty-setting.sh"
ACTION=="remove", SUBSYSTEM=="usb", RUN+="/usr/local/bin/tty-setting.sh"
```

USB機器を外した場合の処理

なにかUSB機器が外されたことを感知したら、「/usr/local/bin/tty-setting.sh」を実行する。

通信ポートが増えたら実行

tty (通信ポート) が追加されたら、「/usr/local/bin/tty-setting.sh」を実行する。

/etc/udev/rules.d/60-local.rules

USBデバイスの固定と自動実行するには?

挿す順番で変わるデバイス名をわかりやすく

```
#!/bin/sh
case $ACTION in
add)
case "$ID_VENDOR_ID/$ID_MODEL_ID" in
12d1/1429)
if [ $ID_IFACE = "00" ] ; then
rm -f /dev/modem
ln -s $DEVNAME /dev/modem
fi
;;
067b/2303)
/sbin/getty 38400 $DEVNAME
/usr/sbin/gpsd -P /var/run/gpsd.pid $DEVNAME
;;
esac
;;
remove)
case $PRODUCT in
12d1/1429/0)
rm -f /dev/modem
;;
67b/2303/400)
kill `cat /var/run/gpsd.pid`
rm -f /var/run/gpsd.pid
;;
esac
;;
esac
```

/usr/local/bin/tty-setting.sh

D31HWのデバイスを固定

「12d1/1429」(D31HW) に対し、デバイスを「/dev/modem」として固定認識するよう設定している。

ND-100の自動処理

「067b/2303」(ND-100) に対して、「getty」で速度設定、「gpsd」の起動までを自動で行なうように指定。

デバイスの削除

D31HWが取り外された場合、「/dev/modem」を削除するように設定。

「gpsd」の停止

ND-100が取り外された場合、「gpsd」を自動で停止するよう指定。

今回の「D31HW」と「ND100」は、単体ならどちらも「/dev/ttyUSB0」で認識されるが、同時に使うと先に挿したほうが「/dev/ttyUSB0」となり、後から挿したものの番号がそのあとの「/dev/ttyUSB1」と変わってしまう。毎回デバイスを確認し、手動で設定すればいいだけの話だが、正直面倒くさい。こういった用途で活躍してくれるのが

「udev」だ。ホットプラグデバイスの動作を指定できる機能で、たとえば「D31HW」を「/dev/modem」に固定する、といった使い方が可能だ。また「gpsd」のように、毎回定型で実行するようなソフトはデバイス名を気にしないで自動実行できるのがうれしい。詳細な使いかたは省略するが、左のようなファイルをつくれればほとんどを自動化することができる。

今回の**達成度**
97%

MISSION COMPLETE

各機能の動作状況

機器認識 ○ (100%)

ボタン設定 ○ (100%)

ソフト設定 △ (90%)

■受信機を認識させるまでは悩んだが、できてしまえばカンタン。リモコンで、なにを操作するかのほうが悩んでしまった。



TARGET 04

DH-MCR-IR

●メーカー不明

実売価格 **2480円前後**

■アキバで売ってたノブブランドのWindows Media Center用リモコン。Windows Vistaではドライバ不要で動作。

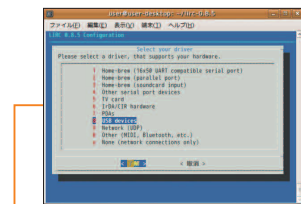
1 「Synaptic」でインストール



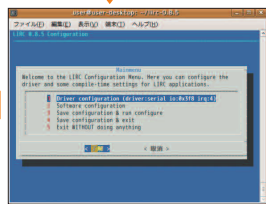
■「lirc」で検索してインストールすると、リモコンの種類を聞かれる。ここで、「Windows Media Center Remotes (new version)」を選択してみたが……。

4 リモコンの種類を選択

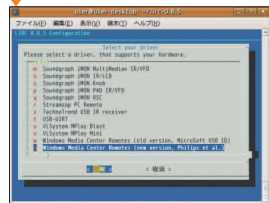
`./configure` (lircの作成環境設定)



■操作はカーソルとEnterキーで行なえる。[8 USB devices]を選択。



■解決して「./configure」を実行。[1 Driver~]を選択する。



■[x Windows Media Center~]を選択。[new version]のほうを選ぼう。

6 無事に認識!

`dmesg`

```
85.956013] usb 2-6: new full speed USB device using ohci_hcd and address 5
86.197111] usb 2-6: configuration #1 chosen from 1 choice
86.392014] usb 2-6: reset full speed USB device using ohci_hcd and address 5
86.601438] lirc_dev: lirc_register_driver: sample_rate: 0
86.688279] lirc_mcuusb2[5]: FINTEK eHome Infrared Transceiver on usb2:5
user@user-desktop:~$
```

`ls -l /dev/lirc*`

```
user@user-desktop:~$ ls -l /dev/lirc*
crw-rw---- 1 root root 61, 0 2009-09-12 21:24 /dev/lirc0
srw-rw-rw- 1 root root 0 2009-09-12 21:24 /dev/lircd
user@user-desktop:~$
```

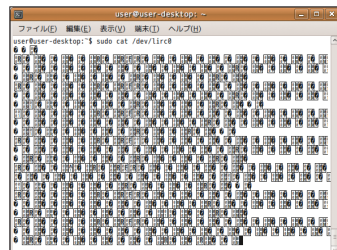
押したボタンの確認

`irw` (リモコン信号の受信)

```
user@user-desktop:~$ irw
0000000037ff07bf2 00 Home mceusb
0000000037ff07be1 00 Up mceusb
0000000037ff07be0 00 Down mceusb
0000000037ff07bdf 00 Left mceusb
0000000037ff07bde 00 Right mceusb
0000000037ff07bdd 00 OK mceusb
```

■「irw」ならボタン名まで確認できる。押したボタンと名前が一致するかチェック。

受信状況を確認



■「sudo cat /dev/lirc0」とし、リモコンのボタンにあわせて表示が出れば成功。

Synapticで探すとパッケージにあるので楽勝かと思いきや、このバージョンでは機器を認識してくれなかった。そのため、本家サイトから最新版をダウンロードして作成。これを使うことで、無事に認識された。なお、MCE用リモコンの選択で、新バージョンを選ぶのがポイントだ。

3 最新版を入手する



■<http://www.lirc.org>にアクセスし、最新版(0.8.5)をダウンロードする。

2 認識されず!?

`dmesg`

```
28.37679] eth1: no link during initialization.
28.377318] ADDRCONF(NETDEV_UP): eth1: link is not ready
38.378365] v4l2: ehci: Link up
39.408089] usb 2-6: new full speed USB device using ohci_hcd and address 5
39.70222] usb 2-6: configuration #1 chosen from 1 choice
user@user-desktop:~$
```

`lsusb`

```
user@user-desktop:~$ lsusb
Bus 001 Device 001: ID 1d6b:0002 Linux Foundation 2.0 root hub
Bus 002 Device 001: ID 1d6b:0002 Linux Foundation 2.0 root hub
Bus 002 Device 004: ID 8087:0568 Alcor Micro Corp. 8-in-1 Media Card Reader
Bus 002 Device 003: ID 8480:0001 Microsoft Corp. Wireless Laser Mouse 1800 Receiver
Bus 002 Device 002: ID 8087:0001 Intel(R) Wireless Display
Bus 002 Device 005: ID 1d6b:0001 Linux Foundation 1.1 root hub
user@user-desktop:~$
```

■USBに何かが接続されたとわかるだけで、デバイスそのものは認識されていない。

5 設定を完了し作成する

`make` (lircの作成)

`sudo make install` (インストール)

再起動

■リモコンの種類を選んだら、[3 Save configuration~]で保存して自動の環境設定を続行。その後makeしてインストールし、再起動する。

**受信できるか
動作確認をする**

ボタン設定

ここまでで受信機の認識はできたが、本当にリモコンの信号を受信できるかはまだわからない。簡単に調べたい場合は、「cat」でデバイスを表示し、リモコンのボタンをいくつか押してみればよい。意味のわからない表示が大量に出てきたら、リモコンの信号がちゃんと受信できている証拠だ。しっかりとボタンが認識されているかを確認したければ、「irw」を使う。起動すると待ち状態になるので、適当なボタンを押してみよう。押したボタンと名前が一致していればオーケーだ。



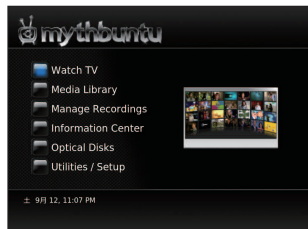
なんでもUbuntuで使いたい!

COLUMN『Mythbuntu』を快適操作!

普通のUbuntuではプレイヤーソフトくらいしかリモコンで操作するものがない。よりリモコンを使った操作をしたければ、『Mythbuntu』がオススメだ。これは、対応するTVチューナーがあれば、録画予約から再生まで、テレビ機能をひととおり提供してくれる優れたソフト、『MythTV』をメインにすえたディス

トリビューションのひとつだ。これを使えば、PCをHDDレコーダーとして生まれ変わらせることができる。ただし、MythbuntuはUbuntuと見た目が違うとはいえ、基本となるシステムは通常のUbuntuとまったく同じ。そのため、今回紹介したリモコンを使いたければ、『LIRC』最新版のインストールが必要となる。

リモコンに最適



■Mythbuntuは起動直後から大きく見やすいメニュー形式を採用。リモコンで操作しやすいデザインとなっている。

Mythbuntuの入手方法



■インストールに必要なCDは、<http://www.mythbuntu.org/>からISOイメージとしてダウンロードできる。

リモコンが使えるようになって、そのリモコンで操作できるソフトがなければ意味がない。手近なものとして、メディアプレイヤーソフトを操作してみよう。今回試したのは、『VLC』と『Totem』の2つ。どちらもプラグインなどの設定から、リモコン機能を有効にできる。なお、停止や再生といった主要な機能は問題なく使えるが、VLCでは一時停止が再生と同じだったり、Totemでは早送りや巻き戻しがきかなかつたりと、動作がやや微妙。ただし、これはソフト側の問題だ。

プレイヤーソフトでリモコンを使ってみる

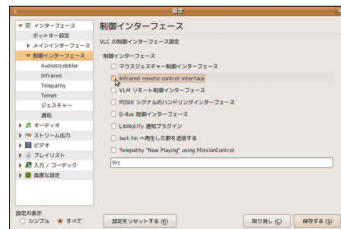
ソフト設定

Totemはプラグイン



■[編集]-[プラグイン]を開き、[赤外線リモート制御]にチェックを入れれば、リモコンが使えるようになる。

VLCでは設定から



■[ツール]-[設定]で、設定の表示に[すべて]を選択。[インターフェース]-[制御インターフェース]で、[Infrared remote~]にチェック。

今回の達成度

100%



各機能の動作状況

機器認識	☐ (100%)
音声出力	☐ (100%)
マイク入力	☐ (100%)

■挿すだけで使えるので動作させることそのものはラクチンだが、USBサウンドを優先して鳴らす方法には少し手間取った。



TARGET 04 Sound Blaster Play!

●クリエイティブ
●<http://www.creative.com/>
実売価格 2100円前後
●ヘッドフォン出力とマイク入力を備えたUSBサウンド。Windowsでは、接続するだけでスグに利用できる。

手動で設定する



■システムで設定したサウンドを開き、USBサウンドを設定。「OSS」を選ぶと音がでた。

「alsa-base.conf」を変更

/etc/modprobe.d/alsa-base.confを編集

```

# Load saa7134-alsa instead of saa7134 (which gets dropped in by it anyway)
install saa7134 /sbin/modprobe --ignore-install saa7134 $KMODLINE_OPTS $& { /sbin/modprobe --
  quiet --use-blacklist saa7134-alsa ; ; }
# Prevent abnormal drivers from grabbing index 0
options bt878 index=2
options cx88_alsa index=2
options saa7134-alsa index=2
options snd-atiixp-modem index=2
options snd-intel8x0 index=2
options snd-via82xx-modem index=2
options snd-usb-audio index=2
options snd-usb-usb2 index=2
options snd-usb-cmipci index=2
options snd-usb-cmipci mpu_port=0x330 fm_port=0x338
# Keep snd-pcsp from being loaded as first soundcard
options snd-pcsp index=-2
  
```

index=0へ変更

■「snd-usb-audio」を0に設定すると優先されるはずだが、チップセット内蔵の音源が優先されたままだった。

機器そのものは挿すだけで使える。通常USB接続のサウンドを優先するには「alsa-base.conf」を書き換えるのが常套手段だが、試してみたら効果はなかったため、「効果音の設定」で変更した。これにより、装着時はUSBサウンド、外したときは内蔵のサウンドと、自動で切り替わった。

利用方法

挿すだけで使えるも鳴らすには設定が必須

動かしてほしいTARGETを募集するぞ!!

購入前に動かし方を知りたい機器、新しすぎて動かし方のわからない機器など、『動かし隊』へのリクエストや入隊希望はtwitterで『@ubuntumag』まで!

反省会 作戦会議中



■作戦会議なのにグダグダで、最後は反省会風。次回、ペーコンの活躍に期待したいところ。

みやさと(以下、み)「今回紹介したラインアップはどうよ?」
ペーコン(以下、ペ)「実用性は別にして、リモコンとかGPSとか、Ubuntuで使えなさそうなものをそろえましたし、なかなかあったんじゃないかと。」
み「Vivi5は残念な感じだけど、コレに懲りずに今後もちつこいPCはやっていくたいね。」
ペ「具体的に考えてますか?」
み「うるさい!それはいまから考えるんだ!今回はほとんどオレが探した機器じゃないか。」
ペ「ごめんなさい、ごめんなさい。次回はやりますから...」

作戦会議

次のターゲットは何にする?